



日本弁理士会 副会長

高尾 裕之

## 2008 年を振り返って

今月のことば

*monthly word*

師走を向かえ、私の副会長としての任期も、早いもので、いや、「やっと」残り3分の1を切った。次年度役員選挙も終わって、気の早い会員からは「ご苦労さまでした。」などと声をかけられることもあり、本当にここで終わりだったら…と思う、今日この頃である。

時節柄、手帳を広げてこの1年を振り返ってみると、

- 1～3月：毎週の次年度会務検討委員会（副会長就任に向けての勉強会）
- 4月：関係団体等への就任挨拶回り、予算編成
- 5月：定期総会対応
- 6～7月：支部への挨拶回り、弁理士の日記念イベント
- 8～9月：第1回臨時総会対応
- 10～12月：会館スペースの借室問題の検討等（年明け早々に予定される第2回臨時総会対応）

と、毎週の執行役員会と合わせると、イベントの類を追っただけでも、切れ目なく盛り沢山のメニューが出てきた一年で、「お腹いっぱい」の1年だったというのが本音である。

2009年を迎えるにあたり、私の担当業務を中心に2008年の会務を振り返り、一足早いですが、2009年残り3ヶ月の会務の抱負を述べておきたい。

### 1. 会員あつての会務運営

2008年は、リーマンショックにはじまる世界金融危機の影響で、日本国内も、景気低迷、先行き不安の中で年の瀬を迎える。しかしながら、日本弁理士会の懐具合は、景気動向に大きく左右されてはいない。それもこれも、平成20年度の予算総額約20億のうち、約95%を占めるのが会員の納める会費であるが、ほとんど滞納もなく、順調に納められているからに他ならない。会務運営にあたって必要な財源の確保にあたり、本会の収支に常時関わる財務担当という立場だからこそではあるが、会員のありがたみを最も実感する。

また、本会会務の多くは委員会の審議を経て執行されるため、委員の存在は会務活動に必要不可欠である。つい最近まで自分自身も委員の立場で会務と関わってきたが、執行役員会ではなかなか目を向けることのできない枝葉の部分に踏み込んで審議して下さる委員の存在は、役員の方であればこそ、ありがたみを感じるものである。

会務活動という点では、全国支部化から数年経ち、支部活動も充実してきているが、支部活動に関わる全国の会員の負担も、直接伺うことができた。副会長就任後、東北、北陸以外の各支部を訪問する機会に恵まれたが、支部行事、発明相談その他の支部活動に携わる会員が、ある程度固定化されつつある支部が多いようである。会務活動に

関わる人材の固定化は本会会務でも問題視されているが、特に会員数の少ない支部では、その問題は切実である。支部活動が充実するにつれて、その負担が増しており、当該活動に携わる支部会員へのありがたみを感じるとともに、支部の事情に応じた会務運営のあり方について、本気で検討しなければならない時期を迎えているように感じる。

会務活動に関わる人材という点では、子供から大人まで参加できるイベントとして開催した弁理士の日記念イベントについて、会員からボランティアを募ったところ、普段委員会等の活動には参加されたことのない会員にも協力を得ることができた。また、会務に関する話をすることができ、会務活動を知ってもらう一つの機会になった。会務活動に関わる人材の育成という点では、種は蒔かれているように思われ、また、次年度以降、芽を出すための機会を設けていくことが必要と思われる。

## 2. 会員のための会務運営

2009年になると、多くの委員会活動が本年度会務のまとめに入る。私の担当する意匠、商標等の実務系専門委員会でも、1年間の研究成果を、より利用価値の高いものとして会員に還元するために、尽力していただいている。特に、意匠、商標、不正競争防止法の各委員会では、会員の実務に際して活用できる実務マニュアルの作成を行っている。実務系専門委員会は、委員自身の勉強の場と見られている節もあるが、会務運営の財源のほぼすべてが会員の会費からなることからすれば、(会務活動の多くにあてはまることではあるが)委員会活動の成果を会員へフィードバックすることを忘れてはならない。上記3委員会の活動も、ふとした時に会員が利用できる実務マニュアルとして力作となる予定であり、期待していただきたい。

また、業務支援システム(会員の業務に有益な情報を集約し、会員の業務効率を高めることを目的としたシステム)についても、電子フォーラムとの統合を図る等して、日常業務に必要な法律等の改正情報や弁理士会からのお知らせ、弁理士会への各種届出書類等、会員が必要な各種情報を容易かつ迅速に入手できるようにするための会員向けポータルサイトとして、年度末までに改修される予定である。また、会員の利便性向上を図るには、コンテンツの充実化及び定期的な更新も必要である。単年度で実施される弁理士会会務は、次年度以降の継続性が担保されないケースもあって、本システム及びコンテンツについても、作りっ放しで、今年度限りの“自己満足”にならないようにしなければならない。今年度中に、コンテンツの充実化及び更新に関する体制作りをして、次年度に引き継ぎたいと考えている。

そして、新年早々には、弁理士会館のスペース拡張を図るための新規借室等を主な議題とする臨時総会を開催する予定である。会員数が1万人に迫る中で、委員会活動、研修等の各種事業を遂行するにあたって必要な会場及び事務局規模の確保は、今後の会務運営に必要と考えている。一方、借室スペースの拡張により、本会財政状況にも少なからず影響が出るが、会務運営費のほぼすべてを占める会費の費用対効果という点からは、事業規模の見直しによる歳出削減が今後の課題となる。スペースの問題、事業及び予算の見直し、いずれも弁理士会の将来を考えるにあたって避けて通れない課題であり、2009年が、その課題解決に向けての第一歩となると思われる。

最後になるが、日本弁理士会を支える会員への感謝の気持ちを忘れずに2009年を迎え、残り3ヶ月、会員のための会務運営を無事にまっとうしたいと考えている。